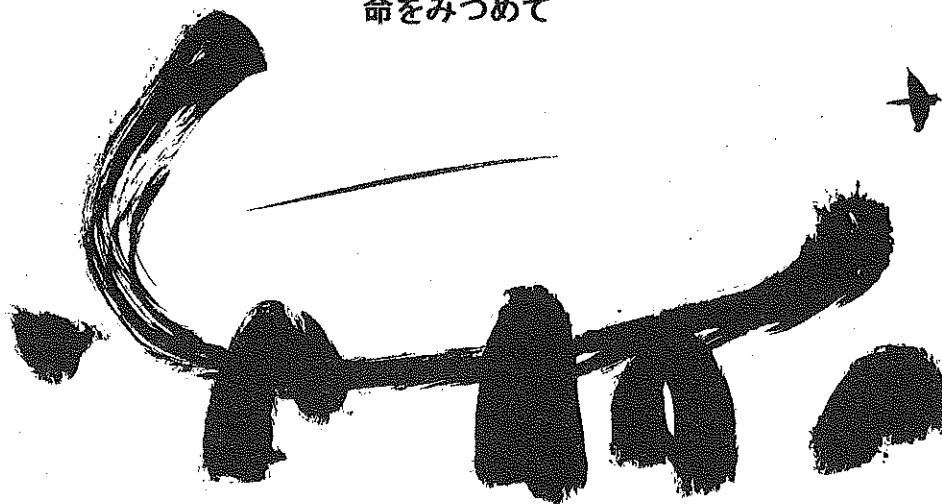




多摩辺

学 校 だ よ り
昭島市立多摩辺中学校
校 長 相 部 公 太 郎
令 和 3 年 1 0 月 7 日

命をみつめて



この題は、中学二年生のとき、骨肉腫という骨の癌で亡くなられた猿渡 瞳さんの作文の題です。その作文の中から一部抜粋して紹介します。

「みなさん、みなさんは本当の幸せって何だと思えますか。実は、幸せが私たちの一番身近にあることを、病気になったおかげで知ることができました。それは地位でも、名誉でもお金でもなく、『今、生きている』ということです。(中略)私のはっきり感じたのは、病氣と闘っている人達が誰よりも一番輝いていたということです。そして、健康な体で学校に通ったり、家族や友達と当たり前のように毎日を過ごせるということが、どれ程幸せなことかということです。たとえ、どんなに困難な壁にぶつかって悩んだり、苦しんだりしたとしても、命さえあれば必ず前に進んでいけるんです。(中略)みなさん、私達人間はいつどうなるか誰にも分からないんです。だからこそ、一日一日がとても大切なんです。病気になったおかげで生きていく上で一番大切なことを知ることができました。」

緊急事態宣言が解除され、中学校では、音楽の授業で合唱練習を行ったり、部活動を再開したりするなど、新型コロナウイルス感染症防止に油断することなく努めながら、教育活動を続けていきます。そしてそのような中、本校の子ども達は、制限や我慢の生活を続けながら、学校生活を送っています。健康観察、手指消毒、マスク着用、黙食などを着実にやり、授業、当番活動、係・委員会活動、部活動に前向きな姿勢で取り組み、あいさつと笑顔があふれる学校を、子ども達自身の手で築こうと一日一日の生活を大切にしています。

このような本校の子ども達の姿は、一生懸命、精一杯生きて短い生涯を終えた瞳さんにはどう映るでしょうか。子ども達には、さらに一日一日を大切に生きてほしいと願うばかりです。